



食住の住を担う素晴らしい家に住むことは建築主にとって幸せ。設計者、施工には幸福を生み出すお手伝いに今後も力を尽くしてほしい」とあいさつ。その後、県環境森林部の小川一林業振興課長らから各賞者に表彰状が手渡された。

仇う

び完成

来賓からは県議会の花塚隆志議員が「安全で円滑な交通が確保される」、神林秀治議員が「緊急輸送道路として機能が強化される」、齋藤淳一郎議員が「地域活性化に貢献する」、柿沼金一町議会議長が「生活環境の向上に寄与する」とそれぞれの立場からパイパス開通を祝う言葉を贈った。

現調は6月の真岡から

県議会県土整備委 活動計画決まる

県議会県土整備委員会は、山形修治委員長は「このほど、市町からの公共土木施設整備要望に基づき今年度の現地調査を含めた年間活動計画（26年3月まで）を了承した。現地調査は6月25日の真岡土木事務所管内

▽鷹簀邸（宇都宮市） 大協議会長賞
 ▽日向野邸（栃木市） 一級建築士事務所アリア町玉生（662）、木の城工務（同）
 ▽クヌ（宇都宮市）



土木工事を必要としない「アクアピグ工法」



水道管内特殊洗浄工法を開発

中里建設「アクアピグ」施工期間短縮

中里建設（佐野市栃本町1051、中里聡代表取締役）はこのほど、土木工事を必要とせず断水や交通規制などの日数を抑制する水道管内特殊洗浄工法「アクアピグ工法」を開発した。水道管路の老朽化による機能低下や水質劣化が全国的に問題となっている中、確実に管内洗浄を行う、コストパフォーマンス

にも優れるアクアピグ工法への期待は高く、先月21日に下野市で行われた公開施工には県内外から水道関係者約20人が参加し、施工を見学した。

ピグ工法による水道管の洗浄は従来から行われており一定の効果を挙げているが、これまでの工法はφ75φ250までの管路内の洗浄が可能なアクアピグ（AQUAPIG）の開発

50ミを超える管路内の洗管ができない問題があった。同社はこの問題を解消するため独自に実験研究施設を立ちあげ、軟質ウレタン発泡加工製品の大手企業であるアキレス（株）と共同で研究を進め、新たに最大口径φ250までの管路内の洗浄が可能なアクアピグへAQUAPIGの開発

に成功。昨年9月に特許を共同出願し、今年に入って商標登録を出願した。アクアピグ工法では、特殊軟質ウレタン材質ピグを使用して管内を強い摩擦で洗浄し、水道水の常時濁質の原因となる浮遊物・堆積物・付着物を徹底的に除去する。大規模工事が不要なため交通規制範囲や施工時間が少なく、1日で1000以上の洗浄が可能。区間断水と短時間での洗浄ができるため、断水による住民生活への影響を最小限に抑制できる。

また、土工事や管断工事

が不要であり、異形口径・曲管・継輪・山越・伏越を含め、全国に埋設されている全ての導水・送水・配水管路延長の、実に約88%の洗浄が可能。さらに、管径が違う複合路線でも一工程で施工でき、コストパフォーマンスにも秀でてい

先月21日に行われた公開施工では、石橋第10号井導水管（DCIP、SGP-VB、口径φ150φ200ミ、延長1950ミ）のボール式補修弁からアクアピグを3回に分けて投入。1回あたり約50分かけて管路内を洗浄した。洗浄作業は滞りなく行われ、作業後の内視鏡調査でも導水管内の堆積物・付着物の除去が確認された。

翌週25日から27日に茨城県坂東市で施工した配水管洗浄においてもその高い洗浄力が実証された。同社ではこれまでに全国各地で累計延長1万8527ミの上水道管路内をピグ洗浄した実績がある。高度成長期に整備された配水管の老朽化が進み、更新時期を迎える中、コストと施工性に優れた同工法に県内のみならず全国の水道事業者の注目が集まっている。

西村製材所（同市村井町19011）